相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165

桃の花をいける姿に
かがんで。
♪あかりをつけましょ ぼんぼりに…

鼻唄を歌いながら
桃の花を手に。
母の変らぬ春の
行事。
子供たちの幸せ
を祈っているのだ
ろう。
想いもまた変らぬ。

名歌

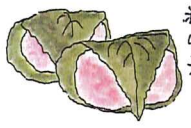
あぢきなく春はいのちの
惜しきかな
花ぞこの世のほだしなりける

和泉式部

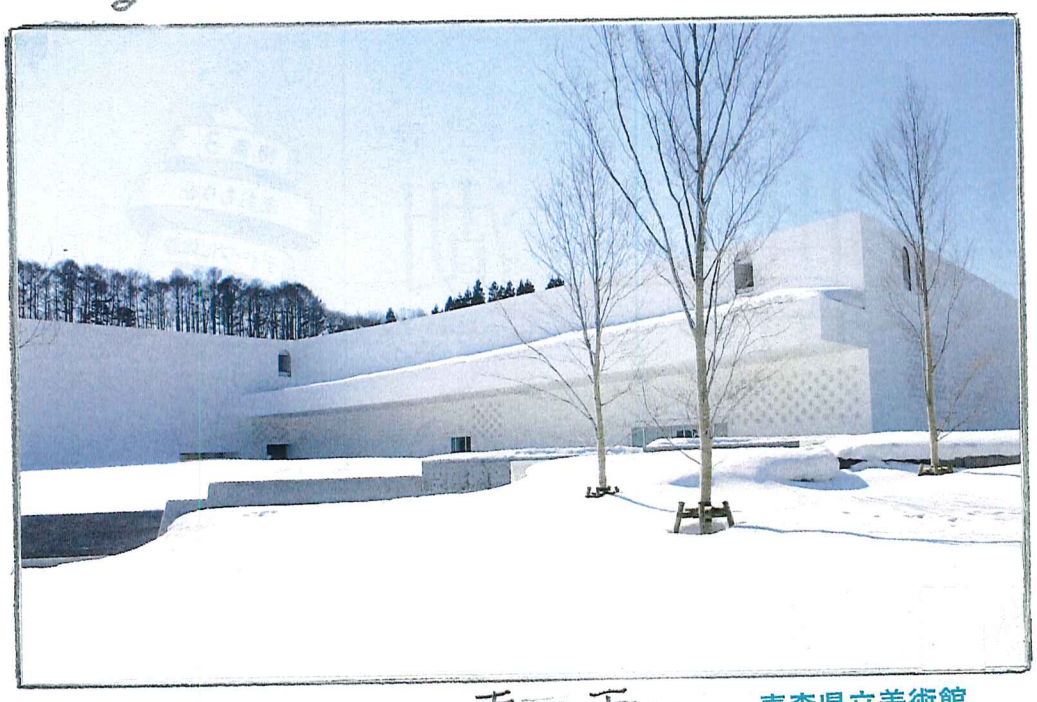
暮らし歳時記

桜もち

関東の長命寺の原料は小麦。



関西の道明寺の原料は米。



春の雪に… 青森県立美術館

伊豆下田・花桃

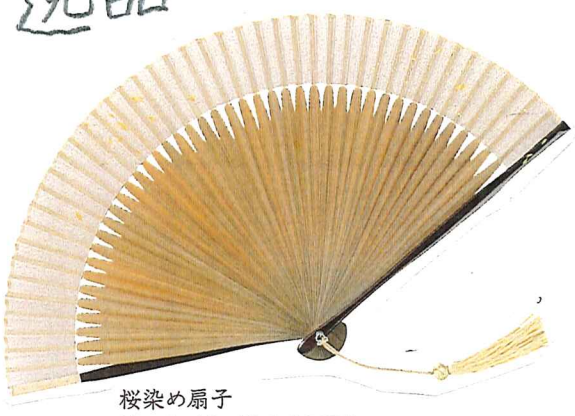
季節のことば

「山笑う」

臥遊録（がゆうろく）に記載あり。
俳句の春の季語。
山が笑っているような感じになってきました。

← 雪の大回廊
酸ケ湯～谷地
約8K ウォーキング

逸品



桜染め扇子
桜の花びらで染めた扇面に
心やわらぐ涼風扇子。

床屋さん

10(水)
18(木)
26(金)

？ わたしはだれ

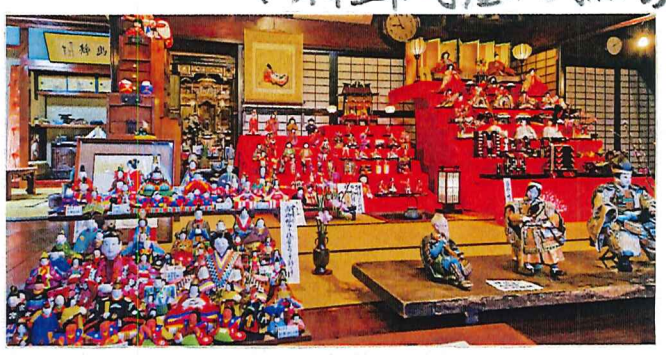
生家→（　　）

近代日本経済の父といわれています。
深谷市の農家に生まれる。

風物詩

いろんな町で…

（村上市町屋のひな飾り）



ユーモアくらぶ

雨だった。
風だった。
今日は
とてもいい天気。
でも…
どうでもよかった。
部屋から
出ることのない
老いた二人だった。

天声珍語

毛布は隅に。
上着は
ぽん、と放って。
さあ、行こう。
菜の花の道を
黄色の中を
「なんて
気持ちのいい
道だろう」
白い蝶も
うなずいて
肩に止まった。
ずっと。
ずうっと続く
黄色い道。
「あっ」
思わず声を
発した。
白い蝶が
黄色に染まって
いたのだ。
ひらひらと
黄色い蝶に
なった。
おどろくことに
私も黄色く
染まっていた。
私は、
黄色人種に
なったのだ。

（スズム）